

少人数情シスでも会社を改革していくために 少人数情シスで成果を出すために 社内稟議を通す7つのポイント



はじめに

時代の変化に応じた社内IT環境を構築するために

「ムーアの法則」という言葉があります。これは1965年に、インテルの創業者であるゴードン・ムーア氏が述べた「半導体の性能は18か月で2倍になる」という集積回路の性能向上に関する予測です。これはIT社会の進化の速度を示す際に引き合いに出されます。

この予測は現実のものとなり、半導体の性能は加速度的に向上し、その恩恵によって、社会はITシステムなくして成立しないところまできました。さらに、クラウドコンピューティングの普及はIT環境を大きく変革しています。

ところが、日々進んでいる企業のIT改革にはまだハードルが存在します。それは「稟議」です。企業において新しいシステムを導入する、業務をアウトソーシングする、サービスを導入するなどの際には、全て稟議を通すことが必要です。しかも、この道のりはなかなか難しいものがあります。

本資料では、この「稟議を通すための7つのポイント」を紹介します。

INDEX

はじめに	1	第3章 上司、経営陣が気にするポイント3選	
時代の変化に応じた社内IT環境を構築するために		1. 本当に効果が出るのか？に対する回答例	15
第1章 稟議を敬遠しては、何も変えられない	4	2. コストがかかりすぎる！への回答例	16
ひとり情シス、少人数情シスが当たり前の現場		3. なぜ今やらなければならないのか？に対する回答例	17
新たなサービスの導入には稟議がポイントになる	5	おわりに	18
第2章 社内で稟議を通すための7つのポイント		どんなにいい企画も、実行できなければ意味がない	
1. タイトル、目的、効果を明確に書く	7	企業情報	
2. 期待できる効果を明確に示す	8		
3. デメリットにも触れる	9		
4. 懸念事項を潰していく	10		
5. コスト、勘定科目も明示する	11		
6. 他部署も巻き込んでいく	12		
7. ベンダー、Sierの知識を借りる	13		